



韓国のお祭り

韓流大旋風の中、2月21日から3月2日まで、韓国の音楽文化調査に行ってきました。民間の村に伝わる音楽や宮廷に伝わる音楽など、韓国の色々な音楽シーンを取材して写真と映像に収めることが目的です。もちろん整理編集の後は展示室で展示するのですが。

ソウル国際空港のあるインチョン市の海岸に近い魚市場では、豊漁を祈願する巫女儀式、ソウルから車で5時間ほど南へ行った全羅北道コチャン群の農村では、旧正月の鎮守祭や綱引き大会、首都ソウルではパワー溢れるサムルノリや、優雅な宮廷音楽、それに伝統的な伽倻琴（カヤグム）というコトづくりの様子の取材と、なかなかバラエティに富んで充実していました。

そんな中で、24日の綱引き大会をご紹介します。毎年行なう五穀豊穡、無病息災、子孫繁栄の村のお祭りです。朝からワラで大きな綱を編んでいきます。9時くらいから作り始めて、完成したのは1時くらい。細いワラを何度も何

度も編んで、束ねて、よじって、最後には直径10センチ長さ50メートルくらいの大きな綱を作ります。綱が完成すると、ひとしきり踊りや音楽で楽しんだ後、いよいよ男女チームに分かれて綱引きです。太鼓と銅鑼と鉦がはやし立てる中、各チーム100人くらいが引っ張り合います。女チームが勝てばその年は豊作、男チームなら無病。3回やって、やっぱりすべて女チームが勝ちました。

そのあとは、綱を丁寧に輪にして奉納。食べ物やお酒を捧げます。そして楽しい宴の始まり。老若男女、皆チャンゴ（写真中央）という太鼓に合わせて踊ります。踊るだけでなく、チャンゴを演奏しあいます。その陽気で楽しそうなこと。韓国の人のパワーに圧倒されっぱなしでした。

さて、以上はすべて戸外での催し。この季節の韓国は最高気温でもヒトケタ。3時頃からは多分氷点下になったでしょう。震えながらの取材でした。（K.S）

企画展「打楽器はおもしろい！」が終わりました。

日 時：平成16年7月20日(火)

～平成17年1月30日(日)

会 場：楽器博物館地下1階企画展示室

観覧者数：50,957人

(会期中の常設展観覧者数)

半年間にわたって開催された企画展「打楽器はおもしろい！」が終了しました。世界の多くの人たちにとって、楽器を生活の一部として欠かせないものだということを、来館者に体感していただくという趣旨で開催されたこの企画展。来館者からは「楽しかった」、「癒された」、「いっぱいお話ができたよ」などの声が聞えてきました。



うつ ふる こある はじく

こんなぐあいに、打楽器で音を出すのは
そんなにむずかしくない。

でも、だからといって打楽器が単純な
楽器かという、そうじゃない。

世界中の人たちは打楽器を・・・

みんなの気持ちをひとつにしたり
神様をお願いをしたり
自分の心の中を深く見つめたり

するために大事に使っている。

この扉の向こうに。
そんな世界が
待っています。

展示室入口に掲げられたメッセージ

◆太鼓でコミュニケーション

言葉に頼らずに、西アフリカの太鼓ジェンベを使って、コミュニケーションをとることができるか、ということを開いたコーナー。来館者からは、初めて顔を合わせる者同士でも、太鼓をたたくと旧知の知り合いのような気分になれるとか、まるでいっしょに温泉につかったような気分などといった言葉をいただきました。

楽器博物館職員も、見かけないなと思ったら、いつもまにかこの部屋で太鼓をたたいていたりして... この主は、企画展ボランティアの安藤潤さん(写真右端)。半年間ほぼ毎日ここで来館者といっしょに太鼓をたたいてくれました。どうもありがとう。



◆インドネシア、ジャワ島のガムランに挑戦

毎日10:30からと14:30から、飛び入りで参加できるガムラン体験タイムを設けました。ガムランが持つ音の魅力やその雰囲気から、参加者は自然に楽器を敬い、演奏も徐々に一つの輪になっていくのがわかりました。



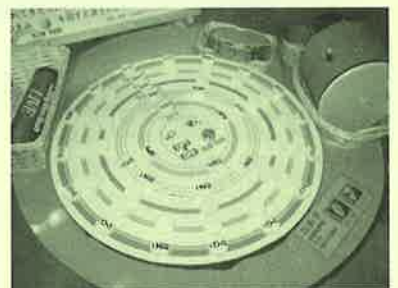
◆赤ちゃんともコミュニケーション

乳児や幼児でも退屈しないスペースを設けました。ここでは、まだ言葉が通じない乳児と、博物館職員とのコミュニケーションもみられました。



◆サンバの達人

展示装置の製作で参加していただいた、企画展ボランティア青木栄一郎さん製作の「サンバの達人」。ダイオード光を追って自分の楽器を演奏することで、うまくいけばアンサンブルができる、うまくできなくてもみんなが顔を合わせて演奏しているだけで楽しくなるというしかけになっています。青木さんどうもありがとうございます。



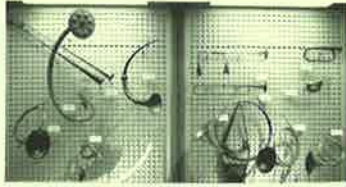
浜松市楽器博物館 催し物予定 2005/06

特別展

「ラッパの世界」3/26(土)～5/8(日)

ラッパの形と構造はユニークなものがいっぱい。そこにこめられた人間の願いとは？

ヨーロッパのほかアジア、アフリカなど世界のラッパ(金管楽器)と文化を紹介。



■講演会「ホルンが響いたヨーロッパ中世の都市と森」

4/29(金・祝) 研修交流センター
講師：山西龍郎(武蔵工業大学教授)

■ミニコンサート

5/1(日) アルプホルン 演奏：博物館職員
5/3(火・祝) 中世のラッパ 演奏：竹本義明
5/4(水・休) 19世紀の金管アンサンブル 演奏：佐伯茂樹ほか
5/5(木・祝) 19世紀のトランペット 演奏：神代修

企画展

「カリブのスチールパン～鉄のひびき～」7/20(水)～8/31(水)

ドラム缶からできたスチールパン(スチールドラム)。青銅の豊かな響きのガムラン。中国の編鐘、アフリカのベルなど、世界の金属打楽器を紹介。カリブ海の国トリニダード・トバゴの迫力ある写真展示も魅力。

■ギャラリートークとスチールパン・ミニコンサート

7/30(土) & 31(日) 14:00
トーク：富田晃(弘前大学助教授)
演奏：弘前大学スチールパン部



講座

■19世紀のピアノと社会(全5回)5月～11月

19:00 展示室

ピアノが最も活躍した19世紀の演奏家や演奏の特徴、他の芸術や文化との関係など、ピアノをめぐる文化史。毎回ゲストを迎えて楽しいおしゃべりで。

コーディネーター：小岩信治(静岡文化芸術大学助教授)

■第1回 5/28(土) 「ピアノを弾く身体」

ゲスト：岡田暁生(京都大学人文科学研究所助教授)

■第2回 7/2(土) 「フォルテピアノと個性」

ゲスト：小倉貴久子(東京芸術大学講師・ピアニスト)

■第3回 9月(詳細未定)

ゲスト：渡辺裕(東京大学教授)

■第4回 10月(詳細未定)

ゲスト：平野昭(静岡文化芸術大学教授)

■第5回 11/22(火) 「連弾とピアノ文化」

ゲスト：角野裕(東京芸術大学教授)



ワークショップ (日程未定)

インドネシア・ジャワ島やバリ島のガムラン、西アフリカの太鼓ジェンベ、韓国のチャンゴ、アメリカのバンジョー、日本の三味線の演奏を楽しく体験。参加費500円

■ジャワ・ガムラン(初級・中級) 講師：風間純子

■バリ・ガムラン(初級) 講師：皆川厚一

■ジェンベ(初級) 講師：寺崎卓也

■チャンゴ(初級・中級) 講師：イ・チャンソプ

■バンジョー(初級) 講師：原さとし

■三味線(初級) 講師未定

レクチャーコンサート

音楽工房ホール

チケット：大人1200円 学生600円 公演2ヶ月前より前売り

■第55回 「ウィーンの音～ワルター・ピアノ～」

5/20(金) 19:00 博物館所蔵1810年ウィーンのワルター製作ピアノでウィーンの音を。ピアノ：小倉貴久子

■第56回 「心に問いかける音楽～箏曲八橋流～」

6/18(土) 14:00 旧松代藩で八橋校の箏曲を伝承する八橋流の味わいを。箏：清水良 横田裕子 てん・仁智

■第57回 「幕末に響いたアメリカ音楽～バンジョー～」

7/10(日) 14:00 黒船とともに日本に登場したバンジョーでアメリカ音楽を。バンジョー：原さとし、青木研ほか

■第58回 「中国情歌～二胡と古箏～」

8/28(日) 14:00 人気絶頂二胡と古箏で中国悠久の詩情を。二胡：張勇 古箏：李晶

■第59回 「イギリスのチェンバロ音楽～カークマン・チェンバロとスピネット～」

10/2(日) 14:00 18世紀イギリスの名器カークマン・チェンバロと小型のスピネットで珠玉のイギリス音楽を。チェンバロ：中野振一郎

■第60回 「マリー・アントワネットの愛した楽器～ナーデルマンハーブ～」

11/12(土) 14:00 悲劇の王妃マリー・アントワネットが自らも演奏したというハーブの魅力を。ナーデルマンハーブ：神藤雅子

■第61回 「北欧のクリスマス～フィンランドのカンテレ」

12/11(日) 14:00 神話にも登場する弦楽器カンテレの澄んだ音色で静かなクリスマスを。カンテレ：はざた雅子、佐野純子

■第62回 「優しさのアイランド

～アイルリッシュ・フルートとハーブ～」
1/14(土) 14:00 アイルランドの伝統と現代を笛と弦の調べに奏せて。

演奏：守安功&雅子



展示室ガイドツアーとミュージアムサロン 毎日曜日

●ガイドツアーはデモンストレーション演奏を交えて30分間の館内ツアー。

●ミュージアムサロンは、学芸員やゲストによる展示室でのミニコンサートとミニ講座

展示鍵盤楽器のデモンストレーション演奏 毎日10:00～16:00 一時間毎

18世紀～19世紀のオリジナル・チェンバロやピアノのデモ演奏(各回5分間)

2006

楽器博物館は6月よりリニューアル工事に入ります。このため2005年2月下旬から3月中旬まで全館休館の予定です。詳細が決まり次第、たより、広報、ホームページなどでお知らせします。

楽器づくりワークショップ「カシシをつくろう」が開催されました。

日 時：平成17年1月23日(日)

10:00~12:00 13:30~15:30

会 場：研修交流センター401研修交流室

講 師：笹井孝善さん(民族楽器キット製作者)

参加者数：39人

籐を編んでつくるブラジルのマラカス「カシシ」をつくりました。とにかくひたすら上へ上へと籐を編みこんでいきます。参加者は、ただ編むだけの作業に最初はちょっと戸惑いもあったようですが、やっているうちにだんだん気持ちよくなってきたようです。



今年も移動楽器博物館が行われました。

もっと多くの子供たちに、楽器博物館のことを知ってもらいたい、楽器を通して世界中の人々のことに関心を持ってもらいたい、という願いのもと、平成16年度も移動楽器博物館「わくわく楽器ランド」が行われました。

移動楽器博物館は、楽器博物館職員が楽器にまつわるお話を聞かせてあげたり、世界の珍しい音楽を聴くことができたり、初めての楽器を体験したり、驚きや感動がいっぱい詰まっています。

移動楽器博物館平成16年度実施校一覧 計8校

追分小学校 6/2~4 花川小学校 6/9~11

泉小学校 6/29~7/2 和田東小学校 10/12~15

蒲小学校 10/26~29 有玉小学校 11/1~5

可美小学校 1/25~28 飯田小学校 2/14~17



◆博物館日誌

- 1/23(日) 手作り楽器ワークショップ「カシシをつくろう」
10:00, 13:30 アクトシティ浜松研修交流センター401会議室
講師：笹井孝善(民族楽器キット製作者) 参加者39人
- 1/25(火)~28(金)
移動楽器博物館(浜松市立可美小学校)
- 2/13(日)~27(日)
新着資料展 地階展示室 入場者：2,313人
- 2/14(月)~17(金)
移動楽器博物館(浜松市立飯田小学校)
- 2/19(日) 友の会交流会「第3回学芸員との夕べ」
- 2/21(月)~3/2(水)
韓国資料調査
- 3/26(土)~特別展「ラッパの世界」 地階展示室

◆12~2月の観覧者数

	12月	1月	2月	3ヶ月の合計	開館からの累計
大人	2,415	3,235	3,419	9,069	641,791
中人	44	50	77	171	25,274
小人	571	866	637	2,074	142,524
幼児	160	309	175	644	38,538
計	3,190	4,460	4,308	11,958	848,127

利 用 案 内

開館時間：午前9:30~午後5:00

休館日：毎月第2水曜日(祝日の時は翌日)、年末年始、
その他施設点検等のための臨時休館日

常設展観覧料：個人 団体(20人以上) 団体(80人以上)

大人(大学生以上) 400円 320円 240円

中人(高校生) 200円 160円 120円

※中学生以下、高齢者(70歳以上)、障害者の常設展入館料は無料です。

館内には、手荷物の持ち込みはできません。

浜松市楽器博物館だより

平成17年4月1日発行 No.39

編集 浜松市楽器博物館

〒430-7790 静岡県浜松市板屋町108-1

TEL. 053-451-1128

FAX. 053-451-1129

URL: <http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/gakki/>

gaku@gakki.city.hamamatsu.shizuoka.jp

印刷：桐屋印刷株式会社